

サービス等利用計画作成時の具体的なイメージ

利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)

「こうやって生活したい」「こんなことをやってみたい」という本人が希望する生活の全体像を記載。「希望する生活」「本人のニーズ」「本人の役割り」等は、基本的には**本人を主語**。

・「総合的な援助の方針」や「長期目標」「短期目標」「支援目標」は、**相談支援専門員の立場**からの評価になっているか？

・「総合的な援助の方針」

アセスメントにより抽出された課題をふまえ、「利用者の及びその家族の生活に対する意向」を相談支援専門員の立場から捉えなおしたもの。計画相談の指針ともなる部分。家族や本人の強みにも着眼。

本人も含めた関係者全員が共通して目指すべき方向(到達すべき)や状態を表現できているか？

長期目標

短期目標を一つずつ解決した積み上げの結果として実現できる目標。単なる努力目標ではなく、利用者が希望する生活に近づくためのもの。抽象的ではなく、あいまいでもなく、高すぎない、低すぎない妥当な目標。

おおよそ、1年くらいのスパンで…

サービス等利用計画作成時の具体的なイメージ

短期目標

できるだけ実現可能な目標。目標達成したかどうか判断できるもの。具体的な支援の内容が明確化されていること。サービス提供事業所の**個別支援計画を立てる際の指標**になることを意識する。

サービス等利用計画案全般

解決すべき課題(本人ニーズ)に対応する公的支援、その他の支援を網羅して検討する。支援を受けながらも、**本人が役割を持つこと(障害の重軽に関係なく)**、エンパワメントを意識して記載。

解決すべき課題(本人ニーズ)

単にサービスを利用するだけではなく、利用者が希望する生活を実現できるための課題。誰にでもあてはなるような(金太郎あめではダメ!)表現ではなく、**個別性**があること。

支援目標

支援に関わる側からの目標として記載。

サービス利用計画作成時の具体的なイメージ

福祉サービス等

インフォーマル(家族、民生児童員、ボランティアなど)も必要に応じて盛り込む。

課題解決のための利用者の役割

本人が取り組めることを具体的にしながら、本人が主体的なれるような、理解しやすい表現で記載し専門用語は使わない。

週間計画表

「週間計画表」の「主な日常生活上の活動」は、1日の日課や1週間の生活の流れには記入しきれない、生活上の具体的な動きを記入。

・「週間計画表」の「サービス提供によって実現する生活の全体像」は、いわば支給決定を行なう行政機関へのアピール欄。この計画により、本人の生活がこんなに変わります」「これだけ希望の生活に近づけます」という視点で記入。

サービス等利用計画の備えるべき特徴

障害者相談支援従事者初任者研修テキストより(中央法規)

1. 自立支援計画であること(意思決定支援)

1人ですべてできる自立ではなく、意思決定がされ、支援をうけながらの自立

2. 総合支援計画であること(地域住民として・・・)

インフォーマルを含めた地域でどのように生活するのが描けているか

3. 将来計画であること

夢や希望が見えているか？ 未来予想図になっているか？

4. ライフステージを通した一貫した支援計画であること

学年があがるごとや次の機関へつなげられる内容か？

5. 不足するサービス・資源を考える契機であること

社会資源を作っていく関係者でもあることを意識しているか？

6. ネットワークによる協働であること

作成者の独り我点や独りよがりではなく、合意形成が図られているか？



サービス等利用計画作成のチェックポイント

1.エンパワメントの視点が入っているか(生活モデル)

本人の強み(ストレングス)や長所を活かしているか？

2.アドボカシーの視点が入っているか(代弁者)

権利擁護や人権擁護に気を使っているか・支援者の意向になっていないか？

3.トータルな生活を支援する計画となっているか

サービスありきになっていないか？地域住民として捉えているか？(防災など)

4.連携・チーム計画となっているか

本人の意向に沿って同じ方向を向いているか？他力本願になっていないか？

5.サービス等担当者会議が開催されているか

開催したことになっていないか？ 評価もしているか？

6.ニーズに基づいた計画になっているか

隠されたニーズや表面化していないニーズがあるか考えたか？

7.中立・公正な計画となっているか

所属する法人や事業所を優先させていないか？

8.生活の質を向上させる計画となっているか

QOLやADLにも目を向けた計画になっているか？

